

Y21b 公開天文台に関するアンケート調査の結果

小野智子（国立天文台）、石田俊人、森淳（西はりま天文台）、小関高明（星の子館）、川端哲也（美星天文台）、久保庭祐子（美スターボランティアの会）、安田岳志（姫路科学館）

我々は、公開を目的として設置された据え付け型及び移動型望遠鏡設備を有する、全国の天文施設 412 件について、公開天文台の実態把握を目的としたアンケート調査を行い、256 件の回答を得た（回答率 62%）。これらを、(1) 天文台が主体となる施設、(2) 宿泊施設、(3) 博物館・科学館相当施設、(4) 公民館等社会教育施設、(5) 学校教育付属施設、(6) 野外活動施設及び公園、(7) 児童福祉施設、(8) その他、のカテゴリーに分けたところ、それぞれに特徴ある回答が得られた。

このうち (1) に着目すると、町や村などの小さな自治体による設置の割合が他に比べて高く、中でも観光部局による設置が多い。立地は山間部が多く、自家用車でのアクセスを必要とすること、観望会は、時間を区切らず連続的に行う形態をとっているところが多い。また、夜間観望会の利用者層は、全般に家族連れが最も多いが、(1) ではカップルの割合が 2 番目に多いことも特徴的である。

年間の夜間観望会の参加人数については、総数の 3 割以上を (1) が占める一方で、その対応にあたる職員数が 1~2 名との回答が 6 割であった。また、施設運営に第三者が意見や助言を与える諮問的機能をもたない施設も 6 割を占める。このようなことから、(1) の天文台が主体となる施設については、我が国において国民に本物の星を見る機会を提供する大きな役割を担っているにも関わらず、社会的位置づけが不明確で、様々な環境が未整備であることが目立っていると言える。